

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 8 年 6 月 16 日	
岩手県知事 達増 拓也 殿	
提出者 株式会社ライフドリンクカンパニー	
住 所 大阪府大阪市北区梅田1-13-1 大阪梅田ツインタワーズ・サウス19階	
氏 名 代表取締役 岡野邦昭	
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 06-6453-3201	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社ライフドリンクカンパニー岩手工場
事業場の所在地	岩手県北上市相去町平林21-66
計画期間	令和8年4月1日～令和9年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	1011
② 事業の規模	製造数 4,382,596ケース
③ 従業員数	40名（2026年4月1日時点）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

産業廃棄物処理責任者：工場長

以下、実務を担うメンバー

製造チーム：5名

物流チーム：1名

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラスチック類
	排出量	1,221.35 t	32.65 t
	（これまでに実施した取組） ○動植物性残さ 脱水時間を伸ばすことで、排出量の削減を図った。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラスチック類
	排出量	1,220.00 t	32.00 t
	（今後実施する予定の取組） ○廃プラスチック類 製造工程でのペットボトルの不良率を減少することで、排出量の削減を図る。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃棄物の種類ごとに分別・処理委託し、埋め立て処分量の削減を行っている。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 上記の取り組みを継続して実施する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	（これまでに実施した取組） 自ら再生利用は行っていない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	（今後実施する予定の取組） 今後も自ら再生利用する予定はない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	（これまでに実施した取組） 自ら中間処理していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	（今後実施する予定の取組） 今後も自ら中間処理する予定はない。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	（これまでに実施した取組） 自ら最終処分する廃棄物はない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	（今後実施する予定の取組） 今後も自ら最終処分する予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラスチック類
	全処理委託量	1,221.35 t	32.65 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0.00 t	26.54 t
	再生利用業者への処理委託量	1,221.35 t	6.11 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t
	（これまでに実施した取組） 動植物性残さについては、バイオマスエネルギーや動物の飼料に再生利用する業者に委託している。		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラスチック類
	全処理委託量	1,220.00 t	32.00 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.00 t	27.00 t
	再生利用業者への 処理委託量	1,220.00 t	5.00 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0.00 t	0.00 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) 廃プラスチック類については、優良認定処理業者への委託量を増加する。		
※事務処理欄			

備考	1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
	2 当該年度の6月30日までに提出すること。
	3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
	(1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
	(2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元
請	完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応
じ	事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
ま	(3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了する
と。	での一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
中	4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中
間	間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中
間	間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
量	5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託
行	を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施
収	令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回
あ	施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）で
へ	る処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者
と	の焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
の	6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙の
入	おり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物
	の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記
	入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないとき
	は、「－」を記入すること。
	7 ※欄は記入しないこと。

(産業廃棄物の種類：全体)

排出した産業廃棄物の合計量を記載してください。

有償物量

不要物等発生量

自ら直接 再生利用する量	t
②	

自ら中間処理した後 再生利用する量	t
⑧	

排出量	t
①	1,254.00
	1,252.00

自ら直接埋立処分又は 海洋投入処分する量	t
③	

数値は、
上段：前年度実績値

項目	前年度実績値 今年度目標値
①排出量	1,254.00 1,252.00
②+⑧自ら再生利用を行った量	t
⑤自ら熱回収を行った量	t
⑦自ら中間処理により減量した量	t
③+④+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t
⑩全処理委託量	1,254.00 1,252.00
⑪優良認定処理業者への処理委託量	26.54 27.00
⑫再生利用業者への処理委託量	1,227.46 1,225.00
⑬熱回収認定業者への処理委託量	t
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t

自ら中間処理 する量	t
④	

自ら中間処理した後 の残さ	t
⑥	

自ら中間処理した後 自ら埋立処分又は 海洋投入処分する量	t
⑨	

⑩のうち再生利用 業者への処理委託量	t
⑫	1,227.46 1,225.00

⑩のうち熱回収認定 業者への処理委託量	t
⑬	

⑩のうち熱回収認定 業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託量	t
⑭	

自ら中間処理によ り減量した量	t
⑦	

直接及び自ら 中間処理した後 の委託処理量	t
⑩	1,254.00 1,252.00

⑩のうち優良認定 処理業者への 処理委託量	t
⑪	26.54 27.00

(産業廃棄物の種類:

動植物性残渣

)

排出した産業廃棄物の種類別のシートを作成してください。
2種類以上となる場合は、シートをコピーしてお使いください。

有償物量

不要物等発生量

② 自ら直接
再生利用する量
t

⑧ 自ら中間処理した後
再生利用する量
t

① 排出量
1,221.35 t
1,220.00

③ 自ら直接埋立処分又は
海洋投入処分する量
t

⑨ 自ら中間処理した後
自ら埋立処分又は
海洋投入処分する量
t

数値は、
上段：前年度実績

項目	前年度実績値 今年度目標値
① 排出量	1,221.35 t 1,220.00
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t
⑩ 全処理委託量	1,221.35 t 1,220.00
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,221.35 t 1,220.00
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t

④ 自ら中間処理
する量
t

⑥ 自ら中間処理した
後の残さ
t

⑩のうち再生利用
業者への処理委託量
1,221.35 t
1,220.00

⑤のうち熱回収
を行う量
t

⑦のうち熱回収認定
業者への処理委託量
t

⑩のうち熱回収認定
業者以外の
熱回収を行う業者
への処理委託量
t

④及び⑦
の減量した量
t

⑩のうち優良認定
処理業者への
処理委託量
t

⑩のうち熱回収認定
業者以外の
熱回収を行う業者
への処理委託量
t

(産業廃棄物の種類:

廃プラスチック)

排出した産業廃棄物の種類別のシートを作成してください。
2種類以上となる場合は、シートをコピーしてお使いください。

有償物量

不要物等発生量

② 自ら直接
再生利用する量
t

⑧ 自ら中間処理した後
再生利用する量
t

① 排出量
32.65
32.00
t

③ 自ら直接埋立処分又は
海洋投入処分する量
t

⑨ 自ら中間処理した後
自ら埋立処分又は
海洋投入処分する量
t

数値は、
上段：前年度実績

項目	前年度実績 今年度目標値
①排出量	32.65 32.00 t
②+⑧自ら再生利用を行った量	t
⑤自ら熱回収を行った量	t
⑦自ら中間処理により減量した量	t
③+④自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t
⑩全処理委託量	32.65 32.00 t
⑪優良認定処理業者への処理委託量	26.54 27.00 t
⑫再生利用業者への処理委託量	6.11 5.00 t
⑬熱回収認定業者への処理委託量	t
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t

④ 自ら中間処理
する量
t

⑥ 自ら中間処理した
後の残さ
t

⑨ 自ら中間処理した後
自ら埋立処分又は
海洋投入処分する量
t

⑤ ④のうち熱回収
を行う量
t

⑦ 自ら中間処理によ
り減量した量
t

⑩ 直接及び自ら
中間処理した後の
委託処理量
32.65
32.00
t

⑬ ⑩のうち熱回収認定
業者への処理委託量
t

⑭ ⑩のうち熱回収認定
業者以外の
熱回収を行う業者
への処理委託量
t

⑫ ⑩のうち再生利用
業者への処理委託量
6.11
5.00
t

⑪ ⑩のうち優良認定
処理業者への
処理委託量
26.54
27.00
t